

壁紙施工要領書

- 紙布壁紙① -

【該当品番】(2013-17WD)

LY-14401~14404

■ 特長

- ・テープ状の紙を小撚り状にし特殊な染色技法で着色した紙糸壁紙です。
- ・紙といった天然素材を主成分にして織り上げていますので、製造上色差・段差、結び目が出る場合があります。あらかじめご了承ください。

■ 下地調整

- ・施工後の、下地の不陸の目立ちを避けるために、下地面はできるだけ平滑に仕上げるようにしてください。
- ・下地面に汚れやチョーク等による文字などが残っている場合は除去するようにしてください。
- ・パテは下地と同色のものを使用するようにしてください。
- ・張り替えの際、裏打ち紙が下地面に浮いた状態で残っている場合は、必ず剥がしたあとに施工するようにしてください。浮いた所の上で施工しますと目開きの原因になります。

■ 接着剤

- ・糊付け機を使用しての糊付けは可能です。
- ・接着剤は、原液タイプをお薦めします。希釈タイプ使用の場合は、糊：水=10：7程度にエチレン酢ビ系ボンドを10～20%程度を目安に混合してください。（このエチレン酢ビ系のボンドを混合しますと、接着剤の乾燥が早まりアイハギの発生時間も早くなりますので注意が必要になります。）
- ・濃度の薄い糊は糊が紙に吸い込まれてしまい、接着力が落ちる他に、壁紙を余計に延ばして後の目開きの原因にもなります。
- ・粘りの強い糊を使用すると、糊溜まりの原因になりやすいので注意してください。
- ・壁紙表面に糊などをつけたまま放置しますと変色の原因になりますので、ただちに拭き取るようにしてください。

■養生・オープンタイム

- ・接着剤塗布後は、うませ時間を 15～20 分程度、施工可能時間は 60 分以内を目安に作業を進めてください。
- ・タタミジワを防ぐため、糊付け後は必ず大きくたたんで上積みは避けてください。

■なで付け・ジョイント

- ・ジョイント部分は目地棒の使用もしくは目地取りした施工をおすすめします。(素材の構成上、ジョイント部に色差・段差が出やすいため。)
- ・表面が傷つきやすいため、なで付けは柔らかめの刷毛を使用していねいに行なってください。
- ・ジョイント部分のなで付けは横方向には行なわないようにしてください。材料を引っ張ってしまうことになり目開きの原因になります。
- ・ローラー掛けの際、あまり強くかけますと、テカリが発生してジョイント部分が目立ってしまうことがあります。当て紙などをするようにしてください。
- ・粘着テープの使用は、テープを剥がした際に壁紙表面を破損するおそれがありますので、なるべく使用は控えるようにしてください。
- ・壁紙表面に接着剤等が付着した場合は、直ちにきれいな水で拭き取ってください。変色の原因になります。

■施工後

- ・施工後は、外気や冷暖房などによる急激な室温の変化を避けるようにしてください。目開きやハガレ等の原因になります。